

東京大学三鷹国際学生宿舎における緊急調査の結果概要

2009年6月24日

実施期間

2009年6月

回答者

東京大学三鷹国際学生宿舎生(国内進学者) 52名

注記

Size: 標本の大きさ

Ave.: 標本平均

StDev.: 標本標準偏差

標本平均・標本標準偏差はそれぞれ小数点以下1桁に丸めた。
円グラフでは、記入のある回答のみをあわせて全体(360°)とした。

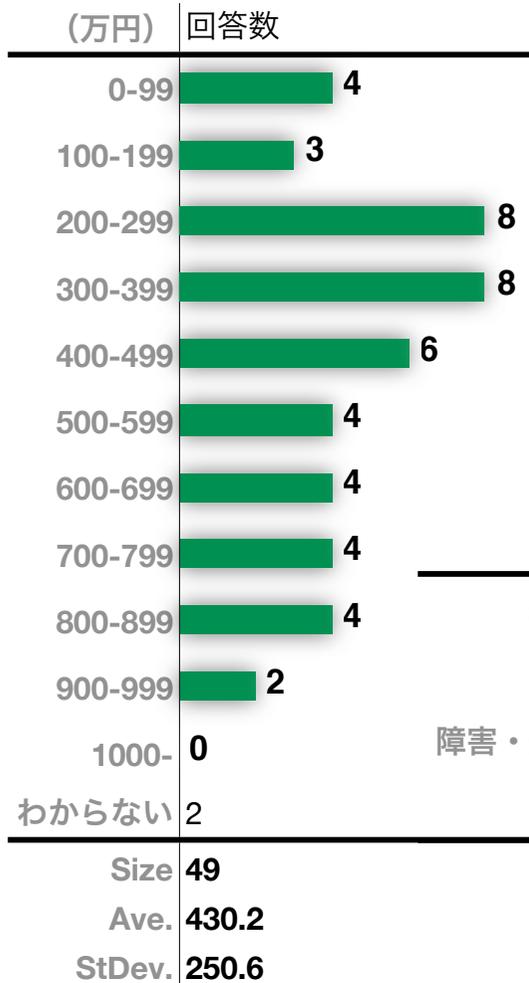
東京大学立花隆ゼミナール

貧困と東大

<http://kenbunden.net/wpmu/utpoor>

家庭の収入

家計支持者の年収額



今回の調査で最も重要な指標となる家庭の収入額について見てみよう。標本サイズは48、標本平均は433万円であった。

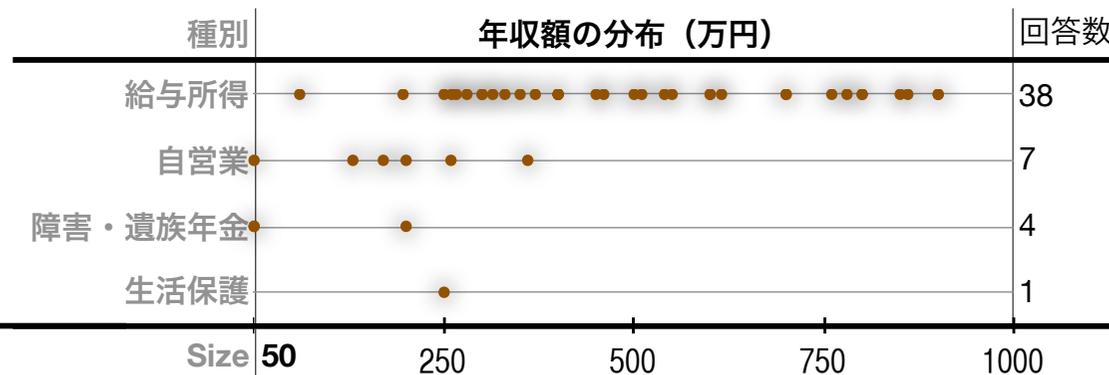
年収額が「わからない」という回答は、保護者の経済状況を尋ねづらく、学生自身が把握していない場合も含まれる。なお、「年収額」とは「公的証明書に記載された年収額」のことだと考えてよいが、“家計支持者”と学生の続柄や両親が共働きかどうかなどは問っていない。

日本国内から東大に進学した学生が三鷹国際学生宿舎への入居を希望する場合、“経済的困窮の度合い”が高い家庭の学生から入居を許可する「入居選考」が行われる。例年、申請者数は募

集定員の数倍に達することから、今回のアンケートは東大生のうちで最も経済的に恵まれない学生層への調査であると言える。

具体的には、「公的証明書に記載された年収額」から、自宅からキャンパスまでの距離、主収入源、家族の人数（特に未成年者の人数か）などに応じて所定の金額が減算され、比較対照のための「家計評価額」が算出される。例えば、自営業の家庭の年収額は、給与収入のそれと比べ、支出が予め参入された額になることが少なくない。従って、選考の際に家計評価額が高く見積もられている可能性があり、かつて小宮山総長も同じ趣旨の発言をしている。

家計支持者の収入源



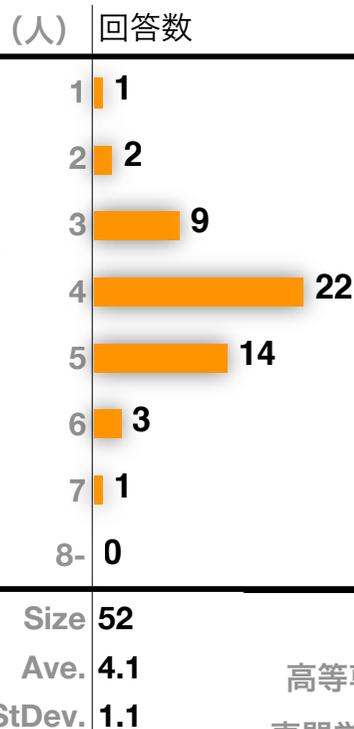
※年収額ゼロは、負の額と思われる場合も含む

家族をめぐる状況も、年収に並んで非常にデリケートな事項である。しかし、家庭の経済状況を考える上で欠かせない要素であることに間違いはない。働く年齢にない子供にとって、父母の財力はみずからの物質的貧富に対する認識や価値観を大きく左右する。

家族構成

続柄	父	母	祖父	祖母	兄弟	弟妹
いない	10	2	49	38	25	15
1人					16	22
いる	41	49	2	13	3	5
2人					0	2
3人-						
Size	51	51	51	51	44	44

家族の人数

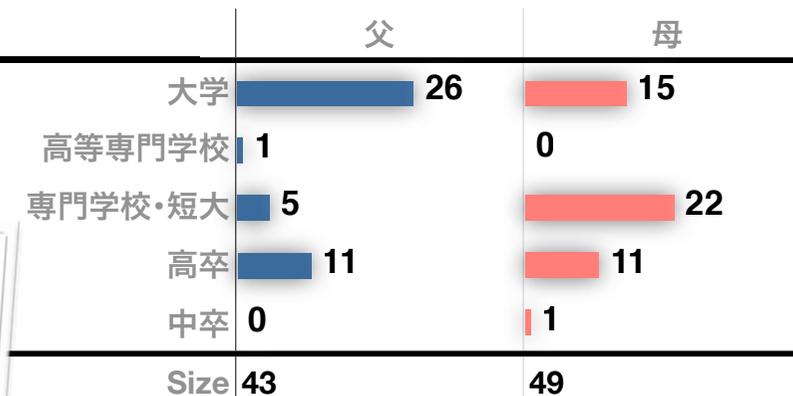


父のいない家庭の保護者



※母親のいない家庭はなかった

両親の学歴



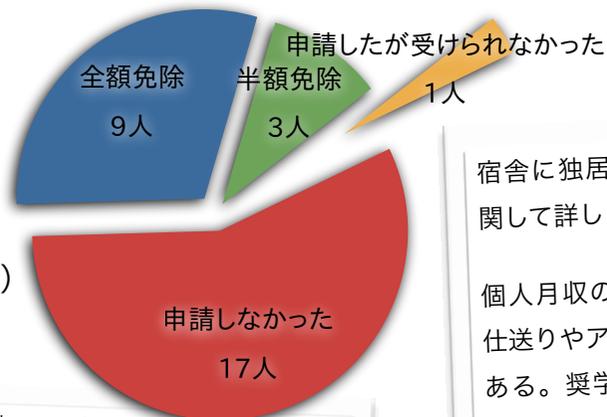
家族

家庭の経済的状況は子供の進学に影響を与えるだろうか。この調査の主目的の一つである。「学歴」とはとりもなおさず自分の在籍学校に関する経歴のことであり、善くも悪くもこの社会においてある種のステータスとして機能している。「教育」を狭い受験の世界に限ることなく評価する重要性は強いと言うまでもないが、一定の投資が大学進学に「有利」であることは間違いない。

家計の極端な悪化を招きやすい例として、親の離婚や死亡などによって生じる母子家庭・父子家庭がある。働き手の少ない家庭では必然的に収入が低く、他からの支援なしには子供の教育への投資も難しくなるだろう。

学生の懐事情

授業料免除制度の利用状況（昨年度）



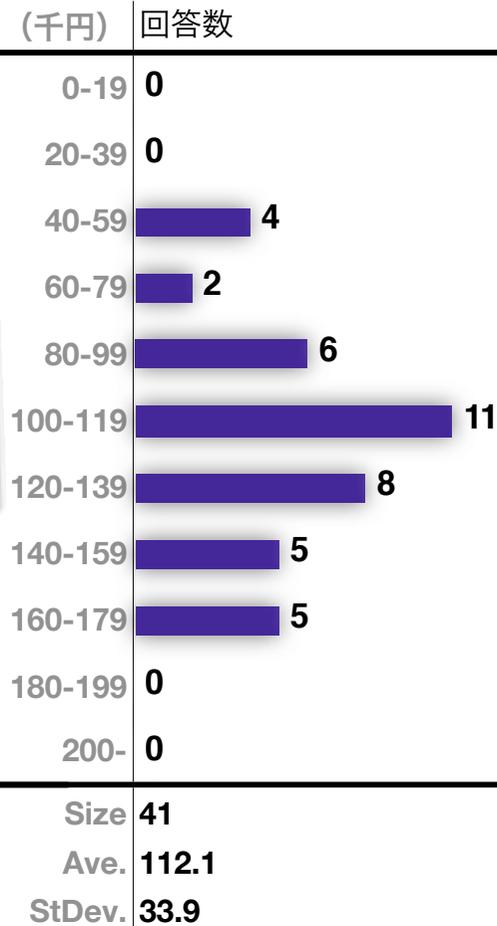
東大の授業料免除制度。申請すれば、家計評価額が基準を下回る場合は一律、半年あたり27万円の納入を全額免除される。給与収入なら年収400万円以下がこれに相当する。基準を下回らなくても、大学の予算範囲内で「半額免除」となることもある。認知度はさすがに低くないとはいえ、自前で計算した評価額を見て諦めた例、手続きの煩雑さを厭うた例もあった。

宿舍に独居する東大生の経済事情に関して詳しく見ていこう。

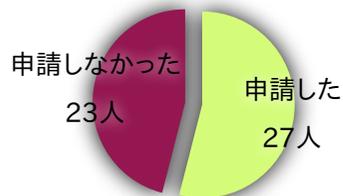
個人月収の主な源は、保護者からの仕送りやアルバイトの賃金、奨学金である。奨学金は、日本学生支援機構（JASSO・旧日本育英会）が全国的に行う貸与事業のほか、種々の公益法人による奨学金の給与もある。

入学前と現在で、困窮度の認識に変化のあった学生は全体の約3分の1だった。

学生個人の月収総額



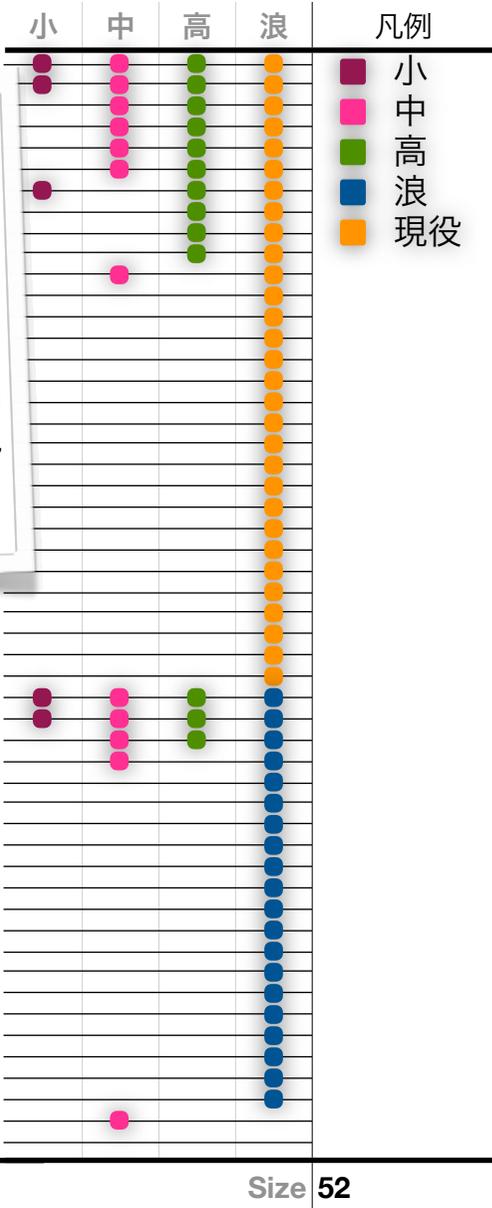
授業料免除制度の申請状況（今年度夏学期）



入学前後の困窮度

		現在困っているか	
		困っている	困っていない
入学前の 経済的不利	実感した	12	10
	実感しなかった	5	22
		Size 49	

塾／予備校歴



右の図は、塾／予備校の利用経歴を示したものだ。横に走る補助線の1本1本が、52名の宿舎生のそれぞれに対応しており、塾や予備校を利用した時期を打点している。なお、一番右の「浪」の列の橙色は、浪人歴がない(=現役合格した)ことを表す。

多額の出費を避け、一切塾や予備校を利用せずに東大へ入学した学生も少なからず見受けられる。学習参考書・問題集の購入さえ控えた例もあった。

受験。留学生は別にすれば(今回の調査は留学生を対象として行っていない)、東大生なら一度は通ってきた道であり、駒場の地に通う誰もがそれぞれ独特の体験を持っている。

果たして、塾／予備校に通うことはどの程度有意義なことなのだろうか? 大学入学後の勉学に対する影響は?

今回の調査では「アルバイトをしている」という回答のうち、実に5分の3以上が塾／予備校・家庭教師の関係であった。意識しているにせよそうでないにせよ、東大生の相当数が、日々塾や予備校でのアルバイトを通じ、大学受験という名の一大市場を動かす歯車として回っている。

保護者の思惑、本人の志望、そして塾や予備校側の意図。三者は互いにぶつかり合い絡み合う。状況はそう単純ではない。

回答者のほとんどが公立高校の出身であった。ちなみに、例年多数の東大合格者を輩出して巷を賑わす進学校は私立あるいは国立の中高一貫校であることが多い。

東大への進路

出身学校	高卒現役	高卒浪人
私立中高一貫校	1	0
私立高校	0	3
国立中高一貫校	0	0
国立高校	0	1
公立中高一貫校	0	0
公立高校	25	15

Size 45

Size 52

東大受験

生活の充実度

- Ⓐ 大学での勉強はうまくいっていますか?
- Ⓑ 自分の将来は明るいですか?
- Ⓒ 希望通りの大学生活ですか?
- Ⓓ 家庭の経済的事情が勉学にどの程度影響していますか?
- Ⓔ あなたの大学生活は充実していますか?

Bad > 1 2 3 4 5 < Good

大学生活についての5段階評価

調査の後半では、家庭の経済的事情や、それが受験・勉学に与えた影響について自由記述をお願いした。また、上に掲げた設問（各5択）の集計も行った。右のグラフでは最もネガティブな評価を「1」、最もポジティブな評価を「5」として示している。

